

| | | | |
|-----------|--|-------|-------|
| 講義名 | 対人コミュニケーション | | |
| 科目区分 | 学部専門科目 | | |
| 担当教員 | 中川 典子 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 5時限 | | |
| | 2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 | | |
| 履修開始年次 | 2年生 | 単位数 | 2 |
| | | 講義コード | 25035 |

主題と概要

21世紀になってSNSや携帯電話による情報伝達が主流になったことに伴い、現在、face to faceで他社と対面で話す機会が希薄化している。本コースでは、社会生活を営むうえで基本となる対人コミュニケーションについて、その理論と実践を学ぶことにより、現代社会で生き抜くためのコミュニケーション能力を育成する。本コースでは扱うテーマは自己、対人、集団・組織、そして異文化の状況におけるコミュニケーションのフォーカスをあてた授業を展開する。

到達目標

- (1) コミュニケーション学におけるさまざまな理論を理解し、実生活に応用する力を養う。
- (2) 自己分析力を養い、自らのコミュニケーション行動を理論と照らし合わせて考察し、次なるステップへとつなげる。
- (3) 個人に内在する多様性を尊重し、他者を理解する態度を養う。
- (4) 授業内のグループワークを通じて、傾聴力と協調性を養う。
- (5) リーダーシップやコミュニケーションがグループダイナミクスに与える影響について考察し、理解する。
- (6) 個人発表を通して、プレゼンテーション力を培う。
- (7) 上記を踏まえて、現代社会で他者と協働し、共存するためのコミュニケーション力を養う。

提出課題

「予習・復習」の欄を参照のこと。

評価の基準

- (1) 課題 (30%)
- (2) 発表 (20%)
- (3) 最終レポート試験 (40%)
- (4) 授業参加および態度 (10%)

履修にあたっての注意・助言他

- (1) コースの評価は、上記の評価基準の(1)～(4)のすべてを完了した者に対して与えられる。
- (2) 講師が入室したときに教室にいない学生は遅刻者と見なす。特別な理由がない限り遅刻厳禁。
- (3) 規定の時間以上の遅刻は欠席となる。また、規定以上の回数欠席すると単位が認定されない。

* 詳細は、第1回目の授業で知らせる。

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

毎回、授業開始時にレジメを配布し、演習の際には必要なハンドアウトを適宜配布する。
(参考文献)
 深田博己(1998)「インターパーソナルコミュニケーション」 北大路書房
 深田博己(2001)「コミュニケーション心理学」 北大路書房
 末田清子・福田浩子(2003)「コミュニケーション学」 松柏社
 星野欣生(2004)「人間関係づくりトレーニング」金子書房
 久米昭元、長谷川典子(2007)「ケースで学ぶ異文化コミュニケーション」 有斐閣双書

授業計画

| | |
|-----|----------------------|
| 回 | 授業内容 |
| 1. | ガイダンス、自己紹介 |
| 2. | 自己とコミュニケーション(1) |
| 3. | 自己とコミュニケーション(2) |
| 4. | 自己とコミュニケーション(3) |
| 5. | 対人コミュニケーションのメカニズム(1) |
| 6. | 対人コミュニケーションのメカニズム(2) |
| 7. | 対人コミュニケーションのメカニズム(3) |
| 8. | 非言語コミュニケーション(1) |
| 9. | 非言語コミュニケーション(2) |
| 10. | ビジネスマナーとコミュニケーション(1) |
| 11. | ビジネスマナーとコミュニケーション(2) |
| 12. | ビジネスマナーとコミュニケーション(3) |
| 13. | 集団とコミュニケーション |
| 14. | 集団とリーダーシップ |
| 15. | 文化とコミュニケーション |

* 授業内容は毎回の進捗状況により、次回に持ち越すことがある。

予習・復習

復習として、毎回、授業内容に関する感想や考察をジャーナル形式で提出する。また、毎回、コミュニケーション能力検定試験対策のための課題を課す。

備考

このコースは一方向的な講義のクラスではないため、受講生の真摯、かつ、積極的な参加を期待する。
 第1回目の授業で履修に関する重要事項を伝えるので、必ず出席すること。